

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100266		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・西川津①		
所在地	〒690-0823 島根県松江市西川津町2663番地2		
自己評価作成日	平成26年10月27日	評価結果市町村受理日	平成26年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=329

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成26年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①利用者に居心地の良い空間を提供できるように、常に利用者の心の声に耳を傾けるように努めている。家庭的な雰囲気の中で、利用者が家族の一員としての役割や楽しみを持って生活できるように支援している。
 ②社会資源を活用し、住み慣れた地域で馴染みの人達との交流を大切にしている。また、地域との関係作りに取り組んでいる。
 ③環境が与えるストレスの軽減のため、日々の買い物や利用者の希望に沿っての外出支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

夏祭りや①ユニットの笹まき作りに多数の地域の人や家族の参加や協力があり、地域の人との関わりが増えてきている。運営推進会議の参加者より踊りのボランティアや文化祭の情報ももらい、利用者の楽しみや新たな馴染みの関係に繋がっている。利用者一人ひとりに合わせた過ごし方を家族や関係者と話し合い、中庭やプランターで野菜や果物を作り収穫したり、食材の買い物、近隣の名所や道の駅、遊覧船など、利用者の言葉に耳を傾け外出支援をしている。②ユニットでは開設時よりアニマルセラピーとして室内犬を飼っているが、当初は関心を持たなかった人が餌や散歩を気にするようになってきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、ミーティングを行い理念・共通の課題について話し合い、ケアの改善を図っている。又、年間目標を掲げて、職員皆で取り組んでいる。	ミーティングや職員会議で話し合い、利用者が今までしてきたことが継続でき、その人らしく過ごせるよう実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事など、地域の方々に声を掛け参加していただき、交流を図っている。また、近隣の方々への挨拶を心掛けている。	事業所行事への参加や協力を得たり、地域の行事やボランティアの情報をもらい関係作りに努めている。夏祭りや①ユニットの笹まき作りの案内を出し、多数の地域の人々の参加があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修を通じて学んだ事を運営推進会議にて事例を挙げながら、話し合いの場を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、普段の様子や取り組み状況を伝え、意見や助言などを伺いサービス向上に努めている。	利用者の状況や活動を報告し、情報交換や意見交換を行っている。地域の行事やボランティアなどの情報をもらい、事業所の活動が理解されてきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、日々の取り組みや研修への参加状況、ヒヤリハット事故報告書などで詳しく伝えたり、ホームでの困難事例を相談し、意見や助言をいただくようにしている。	主に運営推進会議の場で事業所の取り組みや状況を伝えたり、困難事例や利用にあたっての相談などを行い、それぞれの立場で互いに協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社外研修に積極的に参加し、その後内部にて伝達研修を行い職員間の共通認識を図っている。毎月あるケア会議の場でも、身体拘束をしないケアについての話し合いを行っている。	事業所内外での定期的な研修で理解を深め、職員間で共有し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。病状に応じて主治医、家族、事業所と話し合い、状況に合わせた対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングやケア会議の場で、声掛けなど職員間で見直す時間を取り、話し合いを行っている。職員間で注意を払い、虐待が見過ごされる事がないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護研修に参加した職員が内部研修を行い、制度に対する理解・知識を深めている。また、制度の利用が必要と思われる場合は関係者と話し合い活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書に沿って、丁寧に説明を行っている。その際に、利用者・家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得をしていただいた上で契約の締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族アンケートや面会時に意見や要望を伺い、日々の運営に反映させている。	面会時や毎月のたより、定期的な電話で様子を伝え思いを聞くようにしている。行事や家族会に多くの家族が集まり、食事を共にしながら家族との交流や関係づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティング、職員会議などで職員の意見や提案を聞く場を設け、それらを運営に反映させている。	管理者は、会議や日常的に業務や利用者のケアについて意見を聞き、食事に集中できない利用者への関わり方や勤務の相談を受けるなど、共に話し合い改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が向上心を持って働ける様に資格取得に向け支援したり、職員同士が自由に意見を言い合える環境作りに配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に応じ、施設内外の研修受講の機会を確保するようにしている。また、定期的な内部研修を行い、知識・技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会等に参加する事で、同業者との情報交換や研修を通じてサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接後、体験入居にて本人の環境の変化に対する不安感を軽減し、新しい生活を始める事ができるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、ご家族が抱えている不安や悩みを可能な限り理解し、どのように支援していけるかを共に考えていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームは入居相談の窓口であり、来所時には相談に応じて本人や家族に対し、サービスの紹介、導入を提供できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての利用者の経験・力を教えとし、一方的な支援にならないように日々の生活に活かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に普段の様子を伝え、家族の思いも含めて共に考えていける関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院やかかりつけ医、親戚などの面会や電話での連絡など、本人が大切にしてきた関係性を継続できるように支援している。	利用前の情報や家族からの情報で馴染みの場所や友人、知人の把握をし支援に努めている。美容院、知人や親戚の家に行き来したり、仕事関係の人の面会、家族の協力で自宅や墓参りに行く人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流・会話の中で関係性を把握し、食事やお茶の時などの席の配置等に配慮している。時には、職員が間を取り持つ事で利用者間の交流を深める事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームから他へ生活の場を移された場合でも、必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、一人ひとりの思いに耳を傾け、意向の把握に努めている。表明が困難な方の場合は、表情やしぐさ等で思いを察し対応している。	日頃の利用者のつぶやきや表情、仕草から思いの把握に努め、利用者のニーズや心身の情報を「気持ちシート」に書き入れ、職員会議で共有し介護計画に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にできるだけ多くの情報を収集するようにしている。入居後は、家族や本人との会話の中から少しずつ把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の様子を観察しながら、一日の過ごし方や体調等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いや意見を聞き、日々のミーティングや職員会議等で話し合い、必要に応じて見直しを行っている。	家族と定期的に話し合いプランを作成し、日々振り返りを行っている。買い物や外出、畑の水やりなど利用者が今までしてきたことを続け、その人らしい生活ができるように家族、関係者と協力して支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、利用者の状態変化は個別記録に記入し、日々のミーティングで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じて、臨機応変なサービス提供ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容院や馴染みの宗教、知人の面会を通じ、昔馴染みの関係性の中で安心して暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医での診療を継続し、必要時の受診支援と月2回の往診時に状態報告を行っている。	利用時に話し合い希望を聞いている。協力医の月2回の往診や専門医受診時は、日頃の様子を家族や医師に伝え情報の共有に努めている。①ユニットでは医院の閉鎖により話し合いで協力医に移行した人もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護センターとの契約に基づき、月2回の訪問時に健康状態を報告し、健康管理や医療面での助言を受け、対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常日頃から医療機関との情報交換を蜜にしておき、入院時には病院関係者と相談しながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に伴う終末期について説明を行っている。状況に応じて、主治医・家族との話し合いを行うよう努めている。	利用時に事業所の方針を伝えている。状態に合わせて家族や主治医、関係者と話し合い、事業所のできることを伝えながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員や消防署による研修を定期的実施している。また、急変時の対応について内部研修を行い、職員間のスムーズな連携について話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回は消防署指導による避難訓練を実施し、他2回は各ユニットごとにて利用者を含めた訓練を行っている。	定期的な訓練を行っている。日頃よりコンセントの掃除をするなど火災に気を付けている。原発災害時の避難について市の担当者 と話し合いマニュアルを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いや希望を大切にし、その時々状態に見合った支援を行うように心掛け、本人の意思を重視した対応を行っている。	生活歴を知り一人ひとりに合わせた声かけをしている。入室時にはノックしすぐ入室しないようにしたり、入浴時に同性介護を希望する人には思いを尊重し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人の希望や思いを伝えられるような働きかけをしている。一人ひとりの状態に合わせて、本人が答えやすく選びやすい言葉掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり、日々の体調や精神状態を考え、自分のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に馴染みの美容院に行く、または移動美容をお願いする事で、その人らしい身だしなみやおしゃれを楽しんでいただくように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の買い物に同行していただき、旬の食材での献立を考えたり、毎日の食事作りを一緒に行っている。	茶わん拭き、中庭やプランターでの野菜の収穫など利用者の力を活かし共に行っている。職員も和やかに話しながら食事をしている。そうめん流しや、ドライブに弁当を作って行くなど楽しみな場を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や食習慣、栄養バランスに配慮した食事の提供を心掛けている。摂食・嚥下障害のある方にも食形態や姿勢などその時々で検討し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて、毎食後の口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握すると共に、プライバシーにも配慮し必要以上に介入しない自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンや、表情、仕草を見ながら無理強いせず時間や職員を変えるなど状況に合わせて支援している。汚れた下着の扱いにもさりげなく声をかけ対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事量や水分量を把握すると共に、個々の排便習慣に応じての飲食物の工夫や運動への働きかけなど、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	生活習慣に合わせ夕方に入浴できるように支援している。利用者個々の状態に応じてシャワー浴で対応せざるを得ない場合もあるが、できる限り個々の意向に沿った支援を心掛けている。	ゆっくり湯船に浸かりたい人、戸を閉めて一人で入りたい人など一人ひとりの希望に沿って支援している。ゆず湯や菖蒲湯など楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡が日課の方やその時々状況に応じて、休息の時間を取り入れている。夜間も気持ち良く眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や用量を理解すると共に、服薬の支援と症状を細かく観察し、変化があれば主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、できる事できない事を見極め、本人の力を活かした役割作り、楽しみや気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの習慣や楽しみに合わせて買い物や散歩、ドライブ等外出の機会を持つように努めている。	散歩や買い物、中庭、テラス、プランターで作っている野菜の世話や収穫をし外気に触れている。ドライブで紅葉を見たり道の駅で柿ジュースを飲んだり、堀川遊覧船など普段行けない所にも出かけるようにしている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大半の方が心身機能低下により、金銭管理が困難になっているため、本人の希望商品はホームで立て替えている。所持していないと不安になる方に関しては、家族のご協力の元、所持していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に応じて掛けたり取次をしている。手紙のやり取りはできていないが、毎月のお便りに本人が記入する欄を設け、一言メッセージを書いていただいている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節の花を飾ったり、季節に適した飾り付けをして、季節感を味わえるように工夫している。また、共有の空間では居心地良く過ごせるように温度や光の入り具合などに配慮している。	利用者の絵画や行事写真、季節の飾りや花、地域の人からの折り紙の暖簾を飾っている。畳コーナーで雑巾縫いをしたり新聞やテレビを見るなど自由に過ごせる場所がある。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、利用者が個々に過ごせるように、畳の空間や廊下の奥にソファを配置し、他者から離れたところでゆったり過ごされる方もいる。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやタンスなど、本人の使い慣れたものを持ち込んでいただき、本人の好みに合わせた飾り付けをするなど、居心地のよい環境作りに配慮している。	テレビ、植木鉢、筆筒、家族写真、化粧品や位牌など自由に持ち込み、水を供えるなど習慣が継続できる環境作りをしている。職員手作りのアルバムや敬老の日の事業所からの時計つきの写真立てを置いている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口には、表札やそれぞれ違う暖簾を配し、利用者が認識しやすいようにしている。また、建物内部の各所には手すりが設置してあり安全に配慮している。	